

科学研究費助成事業の審査システム改革について

科研費制度では、個人の自由な発想に基づく多様な学術研究の一層の振興を図る観点から、審査区分及び審査方式を中心とした審査システムの見直しを行っています。このたび、科学技術・学術審議会において平成30年度公募（平成29年9月に公募予定）に係る審査から使用する「審査区分表」が決定されるとともに、審査方式やその他関連措置について報告書「科学研究費助成事業の審査システム改革について」（平成29年1月17日）がとりまとめられました。新たな審査システムの概要は以下のとおりです。

●新たな審査システムの概要

新たな審査システムでは、研究種目に応じた審査区分（小区分（306）・中区分（65）・大区分（11））が適用されるとともに異なる審査方式が適用されます。

研究種目	審査区分	審査方式
「基盤研究（B・C）」、「若手研究」	小区分	2段階書面審査
「基盤研究（A）」、「挑戦的研究」	中区分	総合審査
「基盤研究（S）」	大区分	総合審査（審査意見書を活用）

なお、審査システム改革の詳細な内容については、下記のHPの報告書「科学研究費助成事業の審査システム改革について」（平成29年1月17日科学技術・学術審議会学術分科会）をご覧ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1362786.htm

科学研究費助成事業 平成29年度予算案の説明

H29予算案：2,284億円【対前年度 11億円増】

科研費はすべての研究活動の基盤となる「学術研究」を幅広く支援することにより、科学の発展の種をまき、芽を育てる上で大きな役割を果たしています。平成29年度予算案においては、助成水準を確保しつつ、学術の体系の変革を志向した挑戦的な研究や若手研究者の独立に係る支援の強化に取り組むこととしています。詳細については、以下のとおりです。

◆挑戦的な研究の強化・充実

学術に変革をもたらす大胆な挑戦を促すため、「挑戦的研究」によりいっそう長期かつ大規模な支援を実施します。

〈「挑戦的研究」の基本的な枠組み〉

- ・大括りした審査区分の下、より多角的な合議を重視した「総合審査」を全分野展開し、真に挑戦的な研究課題を厳選
- ・論文等の実績よりも発想の斬新性等を重視

◆若手研究者の独立支援の試行

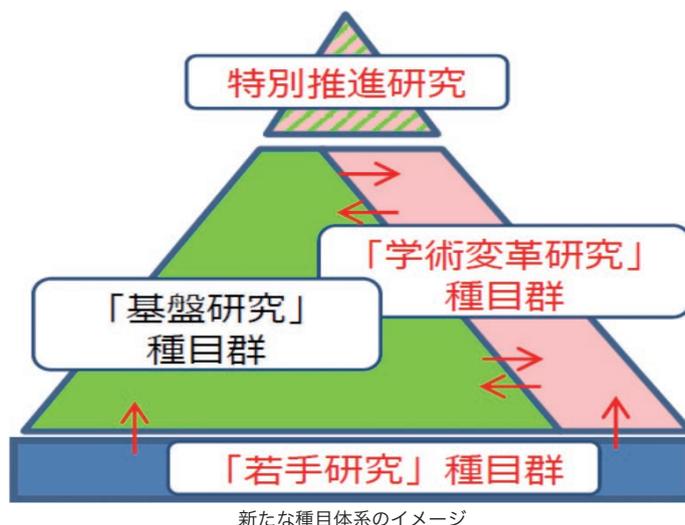
「若手研究者（B）」の新規採択者のうち、研究室を主宰して研究活動を開始する者に対し、所属研究機関との連携により、科研費による重点配分を行う枠組みを試行します。

上記の取組を着手点として、審査システム改革と連動した種目体系の見直し（※）、競争的研究費改革への対応などを並行して推進します。

（※）審査システム改革と連動した種目体系の見直しについては、「科研費による挑戦的な研究に対する支援強化について」（平成28年12月20日科学技術・学術審議会学術分科会研究費部会）において、学術研究を支える唯一の競争的資金である科研費により、学術の枠組みの変革・転換を志向する挑戦的な研究を積極的に支援する観点から、上記の「挑戦的な研究の強化・充実」及び「若手研究者の独立支援の試行」の他、次の見直しを行います。

- ・オープンな場での切磋琢磨を促すため、大型の「若手研究（A）」を「基盤研究」に統合
- ・「若手研究」の応募要件を博士号取得後8年未満の者に変更
- ・「特別推進研究」について、「挑戦性」を一層重視し、助成対象の新陳代謝を促進するため、同一研究者の複数回受給を不可に

それぞれの種目群の役割・関係性を見直し、明確化することにより、「基盤研究」種目群を基幹としつつ、相補的な「学術変革研究」種目群等を再編・強化し、各種目の性格に応じた採択率・充足率のバランスを確保していきます。



新学術領域研究（研究領域提案型）の中間・事後評価について

平成28年12月22日に開催した科学研究費補助金審査部会において、新学術領域研究（研究領域提案型）20領域の中間評価、20領域の事後評価について審議した結果、以下のとおり決定されました。

詳細な内容については、下記の文部科学省科研費ホームページをご覧ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1381025.htm

●新学術領域研究（研究領域提案型） 中間評価（対象20研究領域）

A+	研究領域の設定目的に照らして、期待以上の進展が認められる	1
A	研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの進展が認められる	15
A-	研究領域の設定目的に照らして、概ね期待どおりの進展が認められるが、一部に遅れが認められる	4
B	研究領域の設定目的に照らして研究が遅れており、今後一層の努力が必要である	該当なし
C	研究領域の設定目的に照らして、研究成果が見込まれないため、研究費の減額又は助成の停止が適当である	該当なし

●新学術領域研究（研究領域提案型） 事後評価（対象20研究領域）

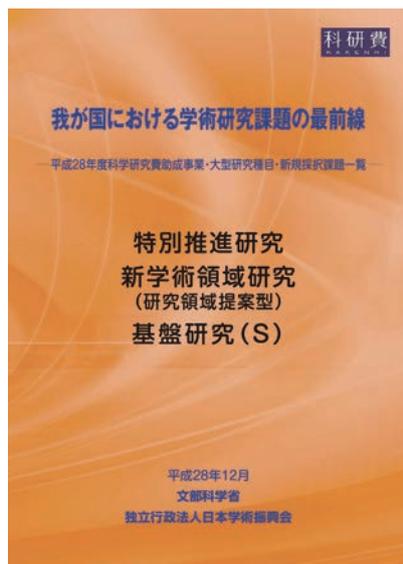
A+	研究領域の設定目的に照らして、期待以上の成果があった	1
A	研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの成果があった	14
A-	研究領域の設定目的に照らして、概ね期待どおりの成果があったが、一部に遅れが認められた	4
B	研究領域の設定目的に照らして、十分ではなかったが一応の成果があった	該当なし
C	十分な成果があったとは言い難い	該当なし
(保留)	翌年度事後評価実施	1

「我が国における学術研究課題の最前線（平成28年度）」を公開

日本学術振興会及び文部科学省において審査を行った研究種目のうち、研究費の規模が大きく評価が高い研究を支援するもので、一人又は比較的少数の研究者により研究が実施される「特別推進研究」や「基盤研究（S）」、複数の研究者グループにより研究が実施される「新学術領域研究（研究領域提案型）」の新規採択研究課題の研究概要等を取りまとめた資料を公開しています。

以下より、ダウンロード可能となっておりますので、ご活用下さい。

http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/30_front/



科研費に関するご意見・ご要望受付窓口の設置について

日本学術振興会ホームページに、科研費に関するご意見・ご要望受付窓口を設置いたしました。科研費に関するご意見・ご要望がありましたら、以下のURLよりお寄せください。

<http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/index.html>

小・中・高校生のための
プログラム



K A K E N H I

「ひらめき☆ときめきサイエンス」とは、大学や研究機関で「科研費」により行われている最先端の研究成果に、小学5・6年生、中学生、高校生の皆さんが、直に見る、聞く、触れることで、科学のおもしろさを感じてもらおうプログラムです。

○平成27年度に実施されたプログラムの事例紹介



『作って学ぶ考古学の世界～縄文時代 貝製腕輪の製作と使用～』

阿部 芳郎 (明治大学・文学部・教授)

貝製腕輪を作って装着したり、作った貝製腕輪と、遺跡のデータとを比較・分析して、考古学への理解を深めました。



『DNA鑑定でオスとメスを見分ける～ ニワトリ胚の発生を観て、性別を診る～』

西堀 正英 (広島大学・大学院生物圏科学研究科・准教授)

ニワトリ胚からDNAを採取して雌雄を判別したり、解剖して生殖器を観察したりして、遺伝子 (DNA) への関心が高まりました。



『感染症の脅威から身を守ろう～新型インフルエンザから生物テロ対策まで～』

三橋 睦子 (久留米大学・医学部・教授)

手の洗い残し調査や除染活動のシミュレーション、感染症サバイバルゲームを通じて、感染防止について学びました。

平成29年度の実施プログラムは、6月頃に公表を予定しています。

「ひらめき☆ときめきサイエンス」の詳細は、日本学術振興会「ひらめき☆ときめきサイエンス」ホームページ (<https://www.jsps.go.jp/hirameki/index.html>) をご覧ください。

Q ひら☆とき

検索